

## 時代は大きな転換期 技術革新の議論を

【機関紙 J A M ・ 新年号 2020 年 1 月 1 日発行 第 251 号】

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

組合員、並びにご家族の皆様におかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

時代は大きな転換期にあります。私たちが望むと望まざるとに関わらず進んでいく技術革新において、誰もが取り残されない移行に向けての議論が必要です。「人間の労働を中心に置いたあり方」「巨大資本による独占を阻み中小企業が取り残されることなく公平公正な市場競争が保証される」そういった技術革新の社会的議論が極めて重要と考えています。

1970年代から始まったIT革命（情報化社会）では、対応の違いによって価格交渉力が著しく劣化し、取り残された中小企業の姿が多く見られました。同じことを繰り返すことはできません。企業が、規模や資本力に関わらずAI、IoTが装備され、その機能をすぐにでも発揮し、利便性を享受できるようにならなければ、日本は急速に国際的な競争力を失い、社会的活力を失うでしょう。なぜならば、日本の製造業における生産性の源泉は、中小企業にあるからです。また、中小製造業の多くが地方に点在し地方経済と日本の雇用を根底で支えています。とりわけ100人未満の小規模企業の存在が大きな位置を占めています。バブルが崩壊する度に繰り返される合理化では、失われた雇用を小規模企業が吸収をしてきました。そして、個々人の高い技能が競争力の中核である中小製造業では、人を大切にすることが経営の中心課題であり、このことが経営民主主義の実践の場ともなっています。

今、中小企業における経営民主主義が、人を大切にしない企業によるM&Aによって踏みにじられています。日本コンベヤ労働組合をはじめ、多くの仲間が必死に闘っています。人を踏みにじる経営者を絶対に許すことはできません。この闘いは中小企業全体の闘いであり、私たち全員の闘いでもあります。今一度、最後まで連帯を誓い合いたいと思います。

結びとなりますが、国内外で働くすべての組合員とご家族の皆様にとって、2020年が幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶といたします。

会長 安河内賢弘